

特に断らなければ $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ とする.

1. $L := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid |x| \leq 1, y = \pm 1\} \cup \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid x = \pm 1, |y| \leq 1\}$ とおく.

(1) L を図示せよ. また L が囲む有界領域 Ω を図示せよ.

(2) L を表すパラメータ $\mathbf{l}: [0, 4] \rightarrow \mathbb{R}^2$ で, 区分的に正則であり, Ω が導く向きを表すものを 1 つ求めよ. (ヒント: 4 つに区切って場合分けして定義するとよい)

(3) (2) で定めたパラメータに対し, $\mathbf{l}(t) \in L$ における法ベクトル $\hat{\mathbf{n}}(t)$ を求めよ.

(4) $\mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$ 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{\mathbf{u}}{|\mathbf{u}|^2}$ に対し, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l}$ を計算せよ.

2. 次の領域 Ω とベクトル場 \mathbf{V} に対し, 境界 $L := \partial\Omega$ の周期的な正則パラメータ \mathbf{l} で, Ω が導く向きを表すものを 1 つ与え, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l}$ を計算せよ.

(1) $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid (x-a)^2 + (y-b)^2 < 1\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x+y \\ -y \end{pmatrix}$ (2) $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid \frac{x^2}{4} + y^2 < 1\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x+2xy \\ x-y^2 \end{pmatrix}$

(3) $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid 1 < |\mathbf{u}|\}$, $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{\mathbf{u}}{|\mathbf{u}|^2}$ (問題 3 も参照せよ)

3. $r > 0$ に対し, $L_r := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid |x| \leq r, y = \pm r\} \cup \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid x = \pm r, |y| \leq r\}$ とおく. 問題 1 の L は L_1 である.

(1) L_1 と L_2 で囲まれる有界領域 Ω を図示せよ.

(2) L_1, L_2 のパラメータ $\mathbf{l}_1, \mathbf{l}_2$ で, 周期的, 区分的に正則で, Ω が導く向きを表すようなものを 1 つ求めよ.

(3) \mathbf{l}_1 と問題 1. (2) のパラメータは L_1 に同じ向きを定めるか?

(4) Ω の補集合 $\mathbb{R}^2 - \Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid \mathbf{u} \notin \Omega\}$ (講義では Ω^c と書いた) は有界ではないことを示せ.

4. (1) 領域 $\Omega \subset \mathbb{R}^2$ 上のベクトル場 $\mathbf{V} = \begin{pmatrix} V_1 \\ V_2 \end{pmatrix}: \Omega \rightarrow \mathbb{R}^2$ に対し, Ω 上のベクトル場 $\tilde{\mathbf{V}}: \Omega \rightarrow \mathbb{R}^2$ を $\tilde{\mathbf{V}} := \begin{pmatrix} -V_2 \\ V_1 \end{pmatrix}$ で定め

る. Ω 内の曲線 L を表すパラメータ \mathbf{l} に対し, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l} = \int_L \tilde{\mathbf{V}} \cdot d\mathbf{l}$ を示せ.

(2) (教科書 p. 31 の補題 1.44 参照) \mathbf{l}, \mathbf{m} を曲線 $L \subset \mathbb{R}^2$ を表す正則パラメータとし, \mathbf{l}, \mathbf{m} に対応する法ベクトルを $\mathbf{n}_l, \mathbf{n}_m$ とする. \mathbf{l} と \mathbf{m} が L に同じ向きを定めるとき, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_l \, d\mathbf{l} = \int_m \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_m \, d\mathbf{m}$ を示せ. また \mathbf{l} と \mathbf{m} が L に逆の向きを定めるとき, $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_l \, d\mathbf{l} = - \int_m \mathbf{V} \cdot \mathbf{n}_m \, d\mathbf{m}$ を示せ.

(提出の必要はありません)

補足. 講義で与えた線積分 (その 2) の定義 6.8 が, 教科書の定義 1.43 と同一のものであることを説明しておきます.

一般に \mathbb{R}^2 内の曲線のパラメータ $\mathbf{l} = \begin{pmatrix} l_1 \\ l_2 \end{pmatrix}$ に対し, $R = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}$ (時計回りの $\frac{\pi}{2}$ 回転を表す) とおけば, 法ベクトル

は $\hat{\mathbf{n}}(t) := R \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} l_2'(t) \\ -l_1'(t) \end{pmatrix}$ です. $|\hat{\mathbf{n}}(t)| = \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \cdots (*)$ が成立し, $|\hat{\mathbf{n}}(t)|$ は t に依存して変化しますが, \mathbf{l} が正則なら 0

にはなりません. よって $\mathbf{n}(t) := |\hat{\mathbf{n}}(t)|^{-1} \hat{\mathbf{n}}(t)$ というベクトルが定義され (分母が 0 にならない), $\mathbf{n}(t)$ は $\hat{\mathbf{n}}(t)$ と同じ向きのベクトルで, t によらず $|\mathbf{n}(t)| = 1$ です. この \mathbf{n} が教科書 28 ページの単位法ベクトルです. 「単位」というのは長さ

が 1 であることを指します. \mathbf{n} の定義と (*) より $\hat{\mathbf{n}}(t) = |\hat{\mathbf{n}}(t)| \mathbf{n}(t) = \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \mathbf{n}(t)$ ですから, 講義の定義 6.8 の意味で

の線積分 (その 2) は $\int_L \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, d\mathbf{l} = \int_a^b \mathbf{V}(\mathbf{l}(t)) \cdot \hat{\mathbf{n}}(t) \, dt = \int_a^b \left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right| \mathbf{V}(\mathbf{l}(t)) \cdot \mathbf{n}(t) \, dt$ と書けます. これは教科書の定義

1.43 に一致します. 後者だと $\hat{\mathbf{n}}(t)$ を $\left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right|$ で割って $\mathbf{n}(t)$ を求めたあと, もう一度 $\left| \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) \right|$ をかけることになって二度手間なので (具体的に計算してみるとわかる), 講義では前者を採用しました.

問題 4 (1) は, $\mathbf{V} = {}^t R \tilde{\mathbf{V}}$ であることと (左上の “ t ” は転置), ベクトルの内積 $\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}$ が行列の積 ${}^t \mathbf{u} \mathbf{v}$ に等しいことを使います. \mathbf{V} の線積分 (その 2) とは $\tilde{\mathbf{V}}$ の線積分 (その 1) である, ということを意味し, 線積分 (その 1) がパラメータによらず向きだけで定まることから, 線積分 (その 2) についても同じことが成り立つ, というのが (2) の内容です.

幾何入門レポート問題 6 (2019 年 5 月 24 日)

担当：境 圭一

各自の学籍番号の下 2 桁を n とおく. 例えば 18S1101X なら $n = 1$, 18S1102Y なら $n = 2$. また $a = n + 100$ とする.

$\Omega := \left\{ \mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid \left(\frac{x}{a}\right)^2 + y^2 > 1 \right\}$ とおく. Ω が導く向きを表すような $\partial\Omega$ の正則周期的パラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ を 1

つ求めよ (向きの選び方がわかるように記述せよ). $\mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$ 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{1}{x^2 + a^2 y^2} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ に対し, $\int_l \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, dl$ を計算せよ.

(5/31 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/19_geometry/19_geometry.html